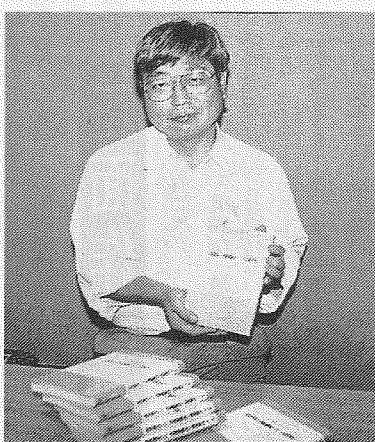


抑圧の中での闘い軸に

『兵庫朝鮮人労働運動史 八・一五解放前』を出版

堀内さんは京都府舞鶴市の生まれ。「朝鮮」との出会いは、神戸市外大生時代に参加した「ベトナム和平を・神戸行動委員会」活動だった。地道に勉強する必要を感じ、ベトナムの差別問題研究会づくりに参加した。



「兵庫朝鮮人労働運動史」を著した堀内さん=芦屋市内

事実から掘り起こしていく

むくげの会所属
神戸の堀内さん

消費組合運動や労働争議

記事拾い事実に肉薄

朝鮮の言葉、歴史、文化を多角研究している「むくげの会」メンバーで、在日朝鮮人運動史研究会の堀内さん(52)=神戸市灘区=が、十八年間の研究成果をまとめた「兵庫朝鮮人労働運動史 八・一五解放前」(同会発行)を出版した。日本の朝鮮侵略が本格化する一九〇五(明治三十八)年から解放に至るまで四十年間の新聞記事を丹念に調査。官製資料には表れない在日労働運動が紹介されている。

手法を直接学んできた。研究会の初めての報告で、その後の生協運動もつながる朝鮮人の消費組合運動を取り上げたのを機に、県内の朝鮮人労働運動を一貫して調査。図書館に通つては新聞のマイクロ

書名は、朴さんの「在日朝鮮人運動史 八・一五解放前」(三一書房)にちなんだ。出発点となつた消費組合運動のほか、神戸市長田区のゴム工業や神戸港東神戸の重工業と朝鮮人労働者のかかわり、県内各地で起きた労働争議などを時代を追つて紹介している。

堀内さんは「自分たちが住む街で、朝鮮人がどのように暮らして、闘つたかを、明らかにしたかった。ライ

日本侵略からの40年 18年かけ研究

フワードの一つの結晶です」と話している。

A5判、二百五十ページ、八百九十九円。購入の問い合わせは、神戸学生青年センター078-851-2760。